



3087  
33  
13





# 傾城水滸傳第十編之叁下帙

傾城水滸傳第十編去歲俗事に氣を翳て西刀筆の使れぬ上帙四身發せんとて  
 阿堵の必早春春の中口ろく出放題目の三曜物のゆるさ塩引鮎と共侶の片身  
 老て年と踰あつて更しく榎定規も寸伸れ尋延る春蘭もまゝ離れる机を  
 ろ不執直下下帙の通令一五八四らる壹部崩あて式朱を朱をさるるや  
 勘定と合まる五百羅羅昔中是とてかひきと練まのさるるさるる  
 ども金聖たんと稿本とと仙鶴堂の願言と今茲の卯と卯の魁春は色梅  
 さるる木に搦潰しる初編より二編までと再板の又あつるると板元の笑顔  
 うは込む十一編のうら約束る伴當と交代小女と神猶もたのこの編數の十二三  
 十四年惟文政のあたりの作と世の評判小兼が来と禿る筆と走りたる馬と  
 作者の乃名詮自笑の知らぬ四十年老せぬ戲墨と餘慶の仕支返り又も  
 細密とてゆふはまらぬと詰て書見の

曲亭馬琴識



傾城水滸傳第十編之叁下帙  
 阿堵の必早春春の中口ろく出放題目の三曜物のゆるさ塩引鮎と共侶の片身  
 老て年と踰あつて更しく榎定規も寸伸れ尋延る春蘭もまゝ離れる机を  
 ろ不執直下下帙の通令一五八四らる壹部崩あて式朱を朱をさるるや  
 勘定と合まる五百羅羅昔中是とてかひきと練まのさるるさるる  
 ども金聖たんと稿本とと仙鶴堂の願言と今茲の卯と卯の魁春は色梅  
 さるる木に搦潰しる初編より二編までと再板の又あつるると板元の笑顔  
 うは込む十一編のうら約束る伴當と交代小女と神猶もたのこの編數の十二三  
 十四年惟文政のあたりの作と世の評判小兼が来と禿る筆と走りたる馬と  
 作者の乃名詮自笑の知らぬ四十年老せぬ戲墨と餘慶の仕支返り又も  
 細密とてゆふはまらぬと詰て書見の

















居

居の左の周章... 居の右の周章... 居の下の周章...

居の下の周章... 居の右の周章... 居の左の周章...



度... 揚... 岩... 居... 度... 揚... 岩... 居...

居... 度... 揚... 岩... 居... 度... 揚... 岩... 居...

居... 度... 揚... 岩... 居... 度... 揚... 岩... 居...























辛巳春目錄

箕笠龍澤先生著

玄同放言第二集

編刺三卷出来

大本 全二十二冊

この編入人事の部は二下り同四を姓名の釋義お  
 起りて源範頼の遺跡考東光寺は蒲檜の圖説は  
 著るもの同異圖珍説と録一或は和漢樹相の得  
 失と論一野乘俗説の傍幷と實を多古書と  
 引用して知學讀史の一助と爲時好小媚る好車偏  
 の考よわす披附記るもの備えて益を得ると多し  
 去卯上月刊刻既成ととも刊定の校訂時おられて  
 製本去秋お及びり別巻の在り方求取可とせん

八文舎自笑評  
 三才多津  
 藝楚 役者評判記

當巳正月二日  
 全三冊

此後著書件はまゝ光緒己卯より當時の著書と異なり  
 此編未熟の抄録と存する由上かあるより後不  
 不引は後を以ては編入自笑の補助としてある  
 年より引られたるもの一上私見世評を列後  
 時々の巧拙をたし上私見世評を列後  
 著書件はまゝ光緒己卯より當時の著書と異なり  
 此編未熟の抄録と存する由上かあるより後不  
 不引は後を以ては編入自笑の補助としてある  
 年より引られたるもの一上私見世評を列後  
 時々の巧拙をたし上私見世評を列後

- △家傳神女湯 一包百廻
- △精製奇應丸 小包百廻
- △婦人任地り 紫葉二色紙
- △眞方熱膽黒丸 百代下
- △元氣固町中下
- △南刺四方の向
- △瀧澤氏調製





曲亭馬琴著

本編合本四冊内中下套二冊  
文政十四年辛卯春正月梓行

颯颯斥候松

千遍臍を噬む  
不向上就鳥巖居

李子野籠城

傾城水滸傳第十編之四

青葱生門柳

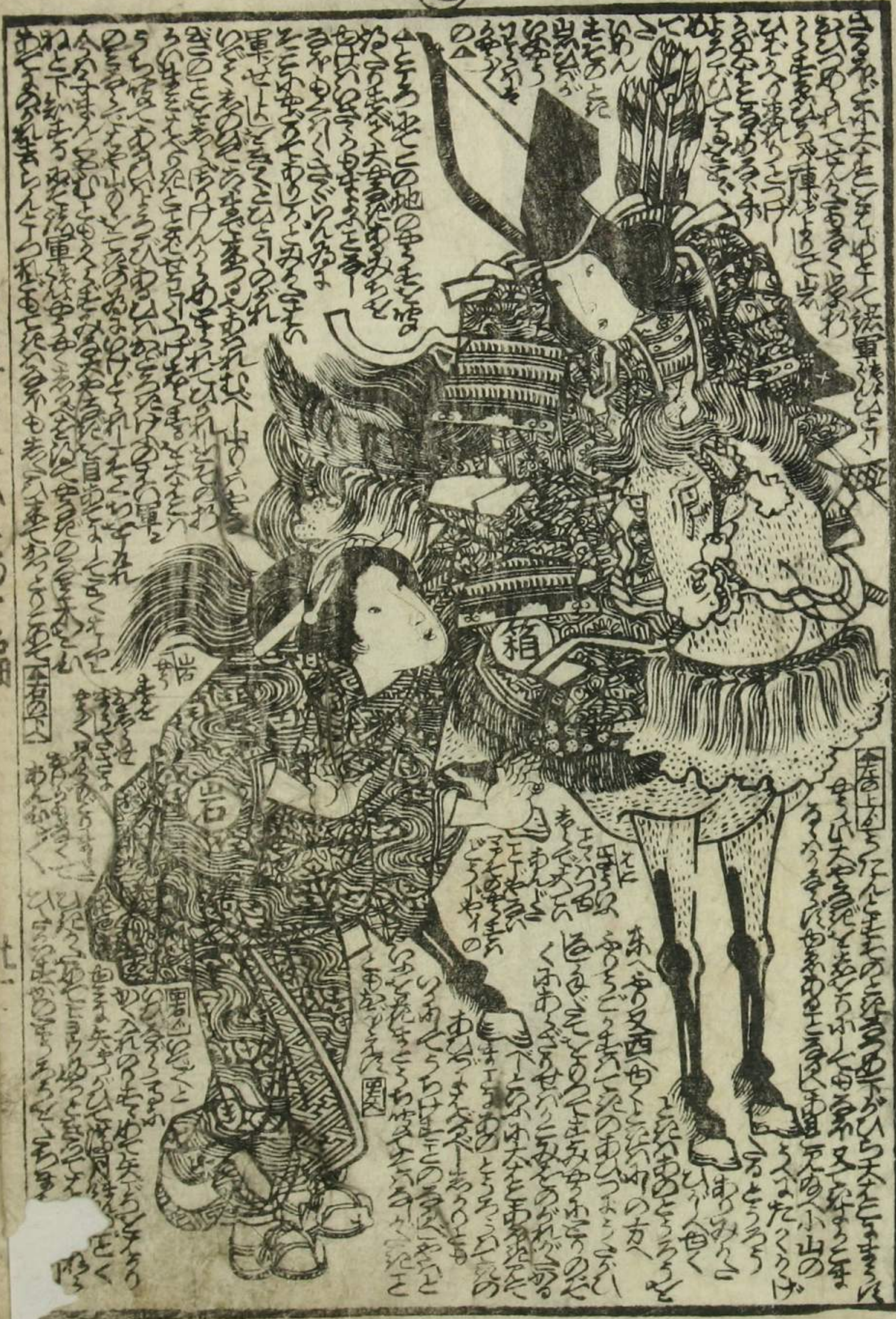
三回仇を討り  
榆莢雨大葉木子か

祝莊敗軍

歌川國安画

江戸本町筋通油町書林  
仙鶴堂 鶴屋喜右衛門

七



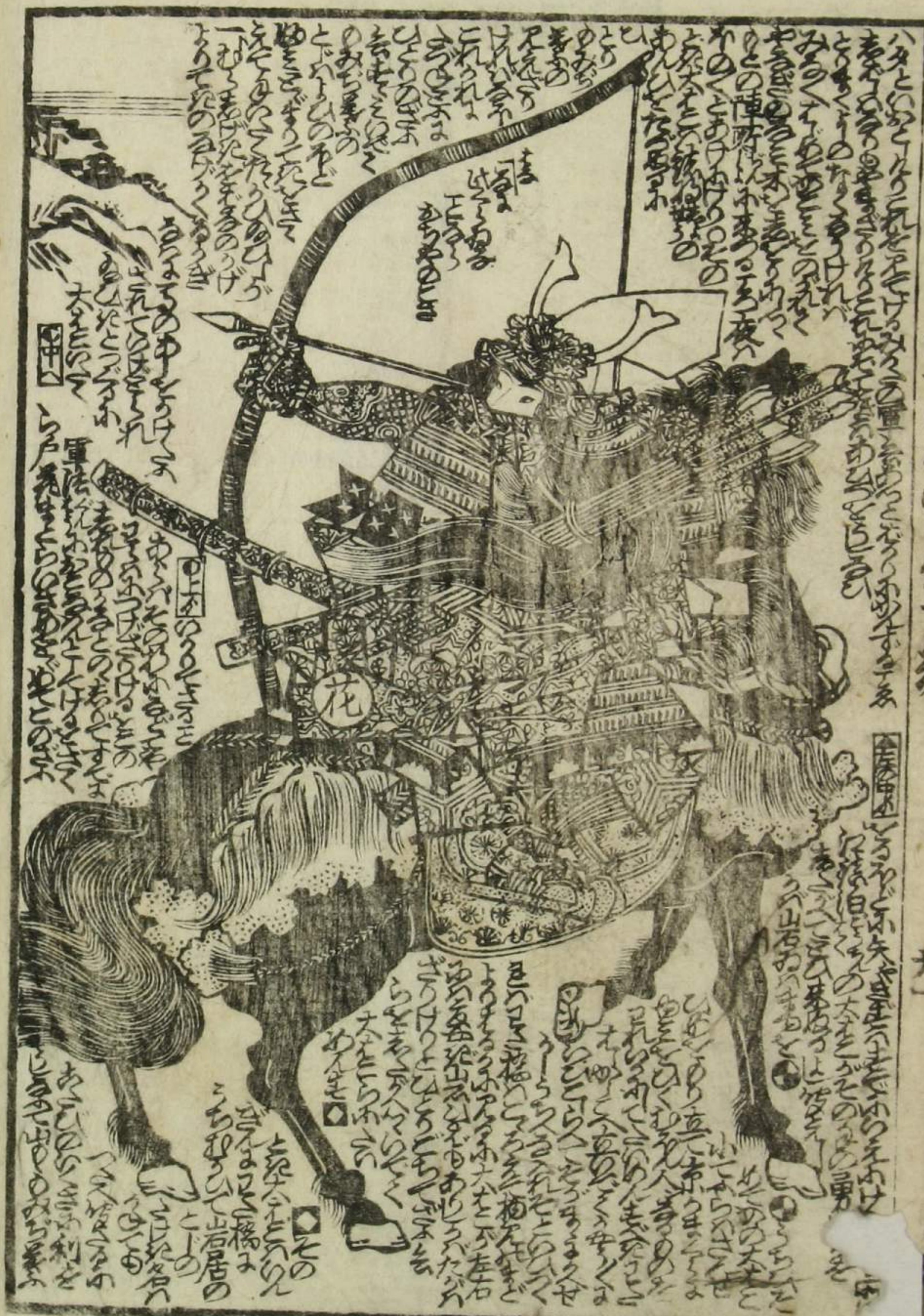




山崎の陣  
山崎の陣  
山崎の陣

山崎の陣  
山崎の陣  
山崎の陣

山崎の陣  
山崎の陣  
山崎の陣



山崎の陣  
山崎の陣  
山崎の陣

山崎の陣  
山崎の陣  
山崎の陣

山崎の陣  
山崎の陣  
山崎の陣









七かきしんいぬ十羅

北四



七かきしんいぬ十羅

北四









ナカハチノイハシ

七



しんせいのいこ

九













ナカノカニイシ十編

七九



ナカノカニイシ十編

七九











戲場顯微鏡 上帙一冊 彩色入 默々 老渙隱著

戲場顯微鏡 下帙一冊 彩色入 歌川國貞畫

本朝 繡像艷容女仙外史 初編 五冊 默々 渙隱 編纂

頭微鏡 萬邦劇場談 二冊 上下 默々 老渙隱 著

後編 萬邦劇場談 二冊 上下 默々 老渙隱 著

傾城水滸傳 初編 十編 上帙 遠藤 著

合物端歌彈初 全冊 柳亭種茂 校訂 歌川國貞 畫

は分 活乃名所 初編 四冊 東海道 花の都路 諸大人 繪入 全冊

矢猛心兵交 全十冊 柳亭種茂 校訂 歌川國貞 畫

春狂言畫鏡 全六冊 右四通共極上品に 七巻 藤比呂 作

倭紫田舎源氏 初編 三編 延板 木燒失 柳亭種茂 作

美艷仙女香單 柳亭種茂 作 歌川國貞 畫

黒油美玄香單 柳亭種茂 作 歌川國貞 畫



書物錦繪 江戶通油町 團扇地紙 問屋鶴屋喜左衛門



